

著者から読者へ

カモノハシの生態から哺乳類の進化、研究の歴史、外交まで

浅原 正和

オーストラリアにカモノハシという動物がいます。一風変わった哺乳類で、毛皮に覆われた体からはくちばしが生えていて、卵を産み、生まれた仔を母乳で育てます。オーストラリア以外では飼育もされておらず、その知名度の割に情報は出回っていませんでした。本書はそのカモノハシについて丸々一冊書かれた初めての日本語の書籍です。

本書は筆者の行っている大学での教養科目の講義を土台としているのですが、そのシラバスでは、「特定の動物の名前を挙げているが、特定の動物を学ぶ講義ではない」としています。もちろんカモノハシ好きの著者としてはカモノハシのことも知ってほしいのですが、カモノハシの魅力はそれ自体だけでなく、その周囲にもあるのではないかと思っています。カモノハシという、ある種ニッチな軸を持つことで、かえって幅広い分野にまたがったストーリーをひとつながりに楽しめるように思うのです。本書は専門的な内容も含みますが、分野をまたがる読み物としての面白さを意識して書いたつもりです。

へんてこな生物であるカモノハシには、その周辺にも面白いことがたくさんあります。カモノハシ発見に至る博物学（生物学の源流）の発展の歴史は当時の植民地開発と不可分ですし、カモノハシが一風変わっているのは、長い年月のなかで哺乳類らしい特徴が進化した歴史を反映したものであります。また、多くの人々がカモノハシに関わり、そこに様々なストーリーがありました。カモノハシに魅せられた研究者の物語や、市民がはじめた保護活動がカモノハシの住む川を甦らせ、米国に標本調査に行き、論文を投稿し、発表されて反響を得るまでのお話をしています。そのほかにも、政治外交史的な研究として、第二次世界大戦中、ウィンストン・チャーチルに贈られたカモノハシに込められたメッセージを紐解くまでのお話もしています。どちらの研究の遂行にも「お茶会」が重要な役割を果たしていたことにも触れています。

その評価は読者の皆様におまかせしたいと思っています。様々な興味感心をお持ちの方に読んでいただけたらと思っています。（あさはら・まさかず）カモノハシ研究者・愛知学院大学教養部生物学科専任講師

浅原 正和著

カモノハシの博物誌

ふしぎな哺乳類の進化と発見の物語



A 5判・224頁・2280円
技術評論社
978-4-297-11512-8
TEL. 03-3513-6150